

## 「私のまちの児童館」写真コンテスト 結果発表!

このコンテストでは、児童館で撮影された素敵な写真を表彰しています。今年は49作品の応募をいただきました。



「わちゃ〜」  
近藤沙織さん(嬉野東)



「水よ出よ!」  
山本和枝さん  
(上久米)



「わたしの  
いもうと」  
橋本智子さん  
(河高)



「おかあちゃん」  
本庄亜矢子さん(栄枝)



「水風呂バンザイ!」  
近藤光浩さん(嬉野東)



「まわれ!まわれ!」  
志賀一哉さん(上滝野)

## 加東市ロードレース大会

平成26年12月23日 県立播磨中央公園



部門	第1位		
	氏名	所属	記録
小学4年女子 1.5km	山口真奈	社	6'19"
小学5年女子 1.5km	成田芽生	滝野南	5'21"
小学6年女子 1.5km	山田真優	滝野東	5'45"
小学4年男子 1.5km	伊藤僚祐	滝野東	5'35"
小学5年男子 2km	藤本真生	社	◎ 7'12"
小学6年男子 2km	陰山誠太郎	滝野南	7'21"
中学生女子 3km	湊舞衣	滝野	11'35"
中学生男子 3km	西村高翔	滝野	10'00"
一般女子 3km	竹鼻里菜	兵庫教育大学	12'15"
一般男子 5km	岩崎涼	兵庫教育大学	16'32"

◎は大会新記録

## 備蓄の大切さ 給食で伝える



1月14日、市立の全幼稚園、小・中学校で、社高校生活科学科のみなさんが考案した防災のための献立を給食として採用させていただきました。この献立は、阪神・淡路大震災発生から20年が経過するにあたって、防災に関連した給食にしようと考えられたものです。おかずは『高野豆腐の八宝菜』『サバの南蛮風』『中華ツナサラダ』の3品で、それぞれ高野豆腐や切り干し大根、魚の缶詰などの保存食を利用していることが特徴です。生活科学科のみなさんによると、「普段から家庭で備蓄できる食材を利用しました。保存食でもしっかりした食事が作れるので、普段から備蓄してほしい」とのこと。給食を食べた社小学校6年の山本湖人さんは「特にサバがおいしかった。備えていれば、災害のときにもおいしいごはんが食べられると分かり、少し安心しました」と話していました。

## 100歳おめでとうございます



稲見すみ子さん(藤田)



鈴木つちゑさん(社)

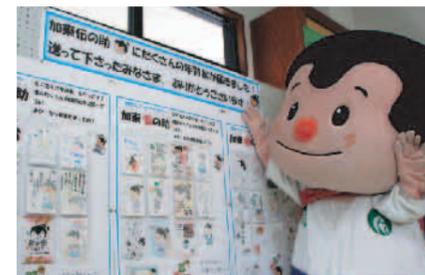
## 社高校発、行列のできるお菓子屋さん



平成26年12月20日、やしろショッピングパークBioで、社高校生活科学科のみなさんが作った洋菓子を販売する『フードデザイン工房Seica』が開店しました。開店直後から50人を超える行列ができる大盛況で、ケーキや焼き菓子などが次々に売れていました。これまで、加東市特産の三草茶など、地元ならではの食材を活かした洋菓子を開発してきた生活科学科のみなさん。市内のイベントで焼き菓子を販売するなど、自分たちが作るお菓子を、より多くの方に食べてもらう機会を求めていました。加東市商工会とやしろショッピングパークBioの協力を得て実現した『Seica』では、今後も月1回程度の販売を続けていくとのことです。生活科学科のみなさんが心を込めて作ったお菓子を、一度ご賞味されては。

2月の営業予定 8日(日) 10:00~

## 伝の助 年賀状をいただいて大喜び



市民のみなさんやファンの方々から伝の助宛にいただいた年賀状53通のうち、40通を道の駅とうじょうで展示しています。

(13通は個人情報が含まれているため、展示していません) 1月20日、年賀状の展示作業を手伝った伝の助は、添えられた似顔絵や「今年もがんばって」「応援してるよ」などのメッセージに目を通すたび、うれしそうに何度もうなずいていました。展示は2月16日(月)までで、24時間見ていただくことができます。ぜひご覧ください。

## 地球にやさしいクリスマス



平成26年12月23日、社中央公園ステラパークで『地球にやさしいクリスマスイブ』が開催されました。

廃油で作るエコキャンドルで冬の夜を楽しむこのイベントは、今回で6回目の開催。2,500個ものエコキャンドルに集まった人々が火を灯すと、明かりを落とした会場に『クリスマス』の文字や伝の助の顔がゆっくりと浮かび上がりました。また、音楽ライブ、花火、子どもたちによる和太鼓やよさこい踊りなどが催され、来場者から拍手と歓声が送られていました。

## 米作り 苦労と喜びを味わいました



米作りを知ることから、『食』と『農』の大切さを学ぶため、昨年の初夏から田植え・稲刈りなどの稲作体験に取り組んできた滝野南小4・5・6年生のみなさんが、平成26年12月12日、学習の仕上げとして、収穫したお米を1・2・3年と先生方に振る舞い、おにぎりにして一緒に食べました。

子どもたちが自宅から持ってきた具は、鮭、昆布、梅といった定番のものから、ソーセージ、焼肉、から揚げ、いくらなど、コンビニにも負けないバリエーション。誰もが自分の握り拳より大きなおにぎりを作り、おいしそうにほお張っていました。6年生の藤原響輝さんは「農業の大変さから、お米の大切さが分かりました。1年生から3年生までの子もおいしいとってくれたので、田植えや稲刈りを一生懸命やってよかったです」と喜んでいました。



身近な話題など、お気軽にご連絡ください。  
広報係がカメラを持って伺います。

企画部秘書広報課  
(庁舎4階)  
☎43-0387